

THE LATEST DOSHISHA



法人部

●文化勲章・叙勲・褒章受章

一九九七年文化勲章受章者の発表があり、同志社関係者からは社友の千宗室氏(裏千家家元)が十一月三日に文化勲章を受章された。

一九九七年秋の叙勲および褒章は、大学名誉教授瀧山敬氏および大学名誉教授網島貞男氏とともに勲三等瑞宝章を十一月十一日に受章、大学工学部教授田淵和彦氏が藍綬褒章を十一月十四日に受章された。

●第二十一回新島講座開催

九月二十二日、大学寧静館会議室(今出川校地)において第二十一回新島講座が開催された。

講師はノルウェー・ノーベル・インスティテュート所長のゲイル・ルンデスタ博士で、「米国と西欧 その協力と対立―過去、現在そして未来」と題して、第二次世界大戦から現在にいたるNATOを中心とした米国と西欧諸国の協調関係について講演された。同氏はノーベル平和賞選考の事務局長も兼ねる方で、戦後のアメリカ外交史を専攻分野とされている。講演の記録は追って出版の予定である。

●第十八回東京新島講座開催

十月十八日、東京有楽町朝日スクエアにおいて第十八回東京新島講座が開催された。

東京新島講座は例年十月頃、同志社教員二人が東京で公開講演を行うもので、今年度は天木志保美大学文学部教授と森田章大学法学部教授が講演を行った。演題はそれぞれ、「ホーム」の創造―キリスト教と日本近代家族」と「企業の社会的責任」である。講演の記録は追って出版の予定である。

●早天祈祷会の開始時間変更

明治三十年前後から若王子山頂にある新島襄先生の墓前行われていたという早天祈祷会(十一月二十九日創立記念日、一月二十三日新島襄先生永眠の日)の開始時間が、今年の十一月二十九日から、従来の六時三十分から七時に変更された。

これは、遠距離通学の学生・生徒が増えたので、早朝の交通事情に配慮して変更したものである。

●同志社創立百二十五周年記念事業基本計画策定

十一月十八日開催の創立百二十五周年記念事業委員会では基本計画が決定、十一月定例理事会において報告了承された。基本計画の主要項目は次のとおりで、個々の項目ごとに今後具体的な検討に入ることとなる。

一・同志社の将来構想

- 二・記念事業 (一) 創立百二十五周年記念行事、(二) 同志社小学校(仮称)の設立、(三) 同志社教育を一層充実するための施設等の整備、(四) 歴史的建造物の修復・活用、(五) 社史資料の整理および『同志社百年史』以降の年表編集など。

大学

●大学院に二博士課程（後期）と二修士課程を開設

文学研究科新聞学専攻博士課程（後期課程）、工学研究科知識工学専攻修士課程、工学研究科数理環境科学専攻修士課程がそれぞれ、今年四月に開設される。

これによって新聞学専攻は学部から博士課程後期課程までの全体制が整い、知識工学専攻は学部・大学院の一貫教育、研究体制を整備したことになる。

一方、数理環境科学専攻は特定の学科の卒業生を受け入れるのではなく、いろいろな分野の基礎知識を持つ学生を受け入れる、工学研究科の中のいわゆる独立専攻である。酸性雨の増加、オゾン層の破壊、地球温暖化、熱帯雨林の減少などの環境問題の背景には、複雑な自然のシステムと多岐にわたる人間の活動が存在する。これら二十一世紀の地球環境問題に取り組む研究者や高度技術者の養成がこの専攻の目指すところである。

●一九九八年度からセマスター制度実施

一九九八年度から学部・大学院ともにセマスター制度を実施する。半年を一学期として現行の前期を「春学期」、後期を「秋学期」と定め、それぞれ独立の学期として、学部四年間八学期、大学院前期課程二年間四学期で教育課程を編成。各授業科目は一つの学期で完結することを基本にする。

この制度の実施により、一学期あたりの履修科目数を少なくして集中的に学習することが可能となり、履修効果の向上が期待できる。また、学期単位で授業が完結することから、留学生の送り出しや受け入れ等により円滑に行うことができるようになる。

●第一回ヘルシンキ大学・同志社大学国際通信会議

「第一回ヘルシンキ大学・同志社大学国際通信会議」が昨年十一月十日午後五時（フィンランド時間午前十時）から二時間にわたって開催された。

この会議は、四月十八日に本学で記念講演を行ったパーヴォリッポネン・フィンランド首相の提唱により、同志社大学を中心とした両国学術交流の一環として、ヘルシンキ大学と共同で本学が開催したものである。

今回は環境問題をテーマに選び、日本側のパネリストとして室田武経済学部教授、郡島孝経済学部教授のほかに宇澤弘文中央大学教授、藤田慶喜桜美林大学教授の参加を仰ぎ、環境保護学、環境物理学、心理学を研究領域とするヘルシンキ大学の専門家と活発な意見交換を行った。

会議は篠原総一国際センター所長の開会挨拶、岩山太次郎大学長、ポールフォーゲルバリ・ヘルシンキ大学副学長の挨拶に続き「WHAT CAN WE DO FOR THE NATURE AND PEOPLE?—Environmental Issues and Policies in Finland and Japan」と題して、英語による基調報告と意見交換が行われた。会場の今出川校地明徳館1番教室には百人、また田辺校地知真館1―232番教室でも四十人を超える学生、教職員が通信回線を通して会議の討論に熱心に聞き入った。

なお、通信回線を利用した国際会議は、情報化時代の新しい国際交流のありかたの一つとして全国でも注目を集めるものであり、今回の成功は今後の発展を予感させるものであった。本学も、この種の会議の発案者として、他の分野での国際通信会議を開

催していく予定である。

●AO入試の結果

十二月四日、アドミツションズ オフィス方式による入学者選抜（AO入試）の結果、五十人の合格者を発表した。各学部・学科・専攻ごとの志願者数・合格者数は別表のとおりである。

今回のAO入試は本学にとっても初めての試みであり、募集活動・PR活動の開始時期も遅かったが、国内外から予想を上回る多くの応募があり、最高で十八倍、平均して五・八倍という高い競争率となった。志願者も日本全国ほとんどの都道府県にわたっている。出願資格となっている「自己アピールできるもの」の分野については、全志願者二百九十人中、指導性（クラブ活動・生徒会など）（五三パーセント）、文化活動（三〇パーセント）、ボランティア活動（二五パーセント）、語学能力（二〇パーセント）、学業成績（一四パーセント）、独創性（一一パーセント）、その他（二パーセント（重複あり））となっている。

最終合格者を見ると、現役四十一人、既卒九人で、最高齢は五十歳代（女性）である。別表にあるように、志願者段階ではほぼ男女半々であったが、合格者は女性が圧倒的

志願者・合格者数			募集 人員	志願者数			1次合格者数			最終合格者数		
				男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
神学部			3	12	26	38	0	6	6	0	3	3
文学部	英文学科	昼間主コース	10	5	10	15	3	9	12	1	8	9
	社会学科	社会学専攻	4	30	34	64	1	7	8	0	5	5
		社会福祉学専攻	4	19	24	43	1	7	8	0	6	6
		新聞学専攻	4	33	38	71	1	7	8	0	4	4
		産業関係学専攻	4	9	5	14	3	3	6	1	3	4
	学科合計		16	91	101	192	6	24	30	1	18	19
	学部合計		26	96	111	207	9	33	42	2	26	28
商学部		10	13	12	25	4	9	13	4	6	10	
工学部	知識工学科		3	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	電気工学科		5	1	0	1	1	0	1	1	0	1
	電子工学科		5	4	0	4	2	0	2	1	0	1
	機械システム工学科		5	6	0	6	4	0	4	3	0	3
	エネルギー機械工学科		5	5	0	5	3	0	3	2	0	2
	機能分子工学科		5	0	1	1	0	1	1	0	1	1
	物質化学工学科		5	2	0	2	1	0	1	0	0	0
学部合計		33	19	1	20	12	1	13	8	1	9	
合 計			72	140	150	290	25	49	74	14	36	50

であつた。多様な活動歴や才能、独自の個性や能力を持った人達が多数合格しており、留学や海外居住経験者も多く含まれている。入学した暁には様々な分野で活躍することが期待される。

なお、五十人の合格者のうち四十七人が入学手続きを行った。

●京都経済同友会50周年

記念寄付講座を商学部で開講

社団法人京都経済同友会による寄付講座「京都企業と経営理念」を今年度秋学期から開設することとなった。

企業活動における経営理念・倫理の重要性や今日の課題について、京都企業を代表するトップの方々を特別講師として招聘する講座で、知的関心を覚え探究する場となると思われる。

これは、商学部の二年次生以上を対象とした実践科目として開講し、京都・大学センターの単位互換科目およびシティーカレッジ科目としても公開される。

講義内容と講師陣は次のとおり。

①「今までの会社」でなく「これからの会社」を目指して

イタリヤード(株)代表取締役社長 北村陽次郎

②国際企業におけるグローバルゼーションとローカリゼーション
(株)堀場製作所代表取締役社長 堀場 厚

③我が社の経営理念

(株)イシダ代表取締役社長 石田隆一

④手塩にかけて六十年「塩かげんで事業展開」
(株)京つけもの西利代表取締役社長 平井義久

⑤最適化社会に向けての企業経営
オムロン(株)代表取締役社長 立石義雄

⑥老舗経営の理念「月桂冠三百六十年の歴史から」
月桂冠(株)代表取締役社長 大倉治彦

⑦京都企業に見る伝統と革新
吉忠(株)代表取締役社長 吉田忠嗣

⑧中小企業金融と京都
京都中央信用金庫理事長 道端 進

⑨経営に何故理念が必要か「京セラのバックボーン」
京セラ(株)代表取締役専務 森 篤

⑩京都商法「江戸時代の京都の商人思想」
(株)イセトール代表取締役会長 小谷隆一

⑪京都企業の経営者精神

千吉(株)代表取締役会長 西村大治郎

女子大学

●ソウル女子大学との短期学生交流プログラム

さる一九九七年一月二七日に本学とソウル女子大学は学生交流に関する協定を締結した。それによると、来年度から相互に短期の学生交流プログラムを実施する予定となっている。ソウル女子大学から本学へは来年六月頃に約十人程度を対象に、日本語の授業、日本文化の授業および授業に関連する Field Trip、本学学生との交流などが予定されている。

一方、本学からソウル女子大学への学生交流は、九月ごろに、学部生、短期大学部生を対象として、こちらも約十人ほどを予定している。プログラムとしては、韓国の文化・歴史の授業、授業に関連する Field Trip、ソウル女子大学生との交流などが考えられている。

●北京大学と学術交流協定を締結

本学と北京大学(東方学学部)は、両大学の友好関係を促進するため、学術交流協定を結んだ。協定内容は以下の通り。

(1)両大学は、学術研究における専門分野に関する共同研究の促進を図るものとする。

(2)両大学は、教員を毎年または半年ごとに一人派遣することができる。

(3)両大学は、交換教員の研究費、宿舍、研究室および図書館等の研究施設について便宜を図るものとする。

(4)両大学の教員は、派遣先の大学で授業を担当または補佐することができる。

●インターネットへの接続を大幅に強化

一九九七年一二月から、情報処理教室にあるパソコン二百台のほとんどに、ブラウザ(ホームページ閲覧ソフト)が組み込まれた。これにより、従来からある電子メールの利用はもちろん、レポート作成・就職活動のための情報収集などホームページを生かした幅広い利用が可能となった。

●シェイクスピア公演 "Twelfth Night (十二夜)"

学芸学部英語英文学科三年・四年次の二年間にわたってシェイクスピア原作の演劇を学び、英語で上演する。企画から、演出、照明、キャスト、パンフレット作成等に至るまですべて学生の手によって行われる。四

十七回目を迎える今年度は、十一月七日(金)、八日(土)の二日間にわたり新島記念講堂にて "Twelfth Night (十二夜)" を上演した。

●ミュージカル公演 "Fiddler on the Roof (屋根の上のヴァイオリン弾き)"

短期大学部英米語科の授業「英語音声身体表現研究」で、英語の発生や発音と身振りや視線の取り方などの身体表現法を学ぶとともに、異文化への理解を深める。その集大成として、学生たちがミュージカルを上演する。二十四人全員がキャストとして出演するだけでなく、A D、照明、音楽等のスタッフとして一人二役も三役もこなす。十回目となる今年度は十二月一八日(木)、新島記念講堂にて "Fiddler on the Roof (屋根の上のヴァイオリン弾き)" を上演した。

高等学校

●二期始業式

九月二日(火)

●メルボルン・ウェスリー校生来校

九月二十二日(月)

生徒九(女子五・男子四)人、教員一人が生徒九(女子五・男子四)人、教員一人が十月十一日(土)まで在京し、今回初めて広島

見学を実施した。

●岩倉祭

十月二日(木)～六日(月)

●人権学習

午後の授業時間に学年別に行い、後に感想文提出

一年 六月実施の人権アンケートの結果を資料に意見交換・討論

二年 映画「スウィング・キッズ」鑑賞

三年 次のうちいずれかを聴講

「南京大虐殺について」

東 史郎(体験者)

「在日を生きる」 林 美佳(卒業生)

「子どもの権利条約について」

安保千秋(弁護士)

「阪神大震災後の仮設住宅の現状と課題」(安田秋成(神戸仮設住宅ネット

ワーク代表)

●他中学入試説明会(学校対象)

十月十七日(金)

●同中学進学説明会(保護者対象)

十月十八日(土)

●中間試験

十月二十一日(火)～二十五日(土)

●他中学入試説明会(保護者対象)

十月二十五日(土)

●宗教週間

十一月四日(火)～八日(土)

「あなたは何処へ行くのですか」

講師 福井達雨（止揚学園）

「二〇〇〇年をヨベルの年に」

草地賢一（PHD協会）

「自分のしたこと 言ったこと」

高橋詠子（梅花中高校）

「塩の効き目」

大澤 宣（紫野教会）

●保護者面談

十一月六日（木）

●第四十五回全国私学教育研究集会

十一月十三日（木）

標記の「科学教育」分科会が本校で開催され（運営委員長山崎 彰同高教頭）、全国からの参加者があり、多大の成果を収めた。十四日（金）は琵琶湖博物館視察。

●期末試験

十二月二日（火）～六日（土）

●クリスマス礼拝

十二月九日（火）

この時の献金と手作りのリースをもって止揚学園を訪問（十二月十一日）

●家庭クリスマス

十二月十三日（土）

教職員および家族約六十人が本校食堂に集い、楽しい一時をもった。

香里中高

●食堂拡張工事完成

八月二十七日

生徒食堂の手狭を緩和するために有朋館二階部分を床面積一三三平方メートル、バルコニー七十七平方メートルを拡張。工事費約一億三百六十万円。グラウンドに向かって高殿のように張り出したため、体育競技とくにウインタースポーツの観戦には絶好の場所となるであろう。

●創立五十周年記念事業募金報告

本年四月一日から九月二十四日までに件

数五百七十二件、金額七千四百二万二千元

●中学高等学校説明会

十月十一日

高校は例年通りであったが、中学は京都府・兵庫県と併願できるとあつて、香真館が一階も二階も一杯になる盛況であつた。

●中学修学旅行

十月二十六～二十九日

山田校長の発案で昨年から同志社のルーツを訪ねる旅を行っている。安中では新島学園でパイプオルガンに合わせ、讃美歌を合唱し心が清まる。さらに安中教会では「新島襄」「湯浅治郎」「海老名弾正」「柏木義円」「デイヴィス」の肖像画について解説し生徒

の理解を深め得た。会津若松では山本寛馬、八重兄妹の生誕地と八重奮戦の地鶴ヶ城を訪れ感慨に耽った。有意義な旅であるが安中周辺に宿舎がほしい。

●宗教教育教職員研修会

十一月五日

大阪島之内教会にある自殺防止センター所長西原由紀子先生を迎えて開催。「電話がかかってきたときには愛情を込めて応対することが基本」との話に感動する。

●同志社香里同窓会総会

十一月七日

総会では山田校長が同志社香里五十周年記念事業の概要を説明し募金への協力を依頼。懇親会には松山義則総長、野本真也理事長も参加され、盛会を極めた。

●教育相談研修会

十一月十九日

長岡京市立教育センターカウンセラーで本校のカウンセラーもお願いしている前田供子先生を講師に迎えて「不登校問題」をテーマに本校の実情とその対策について話してもらった。切実な問題だけに教職員もほとんど全員が参加していた。

●第三回地域クリスマス祝会

十二月五日

まず香真館で映画「靴屋のマルチン」を鑑賞、ついで中庭でクリスマス礼拝をおこな

う。ママさんコーラスが歌う曲に合わせて全員がクリスマスソングを合唱、松山義則総長も来校され、例年になく盛り上がりを見せた。終了後、PTAが振る舞うぜんざいで近隣の子供たちは大喜びであった。

女子中高

●韓国本浦貞明女子高等学校宣教会合唱団による賛美礼拝

キリスト教同盟校である金城学園のご紹介により、本校の特別礼拝でご奉仕いただいた。ハングル語での祝祷もあり、短い時間であったが、隣国との交流の時を持つことができた。「ウリエイウッソン・となりびとは」という歌をそれぞれの母国語とともに歌った。

●高校修養会

九月六日(土)～七日(日) 関西学院千刈キャンプ場にて、講師に近江兄弟社学園中・高の中島 淳先生を迎え、「出会い」をテーマに開催した。フォトランゲッジ(写真を見ながら自己表現するグループワーク)に豊かな時を過ごした。

●中学修養会

九月十三日(土)～十四日(日) 関西学院千刈キャンプ場にて、講師に同

志社高校聖書科講師の原田博行先生を迎え、「無題」をテーマに開催した。テーマはいつしか「愛」となり、楽しく、また考えさせられるグループワークの時を過ごした。

●文化祭・バザー

合唱コンクールは、中高とも各クラスが最も力を入れるイベントで、この日に向かっている練習にすべてのエネルギーを費やしていると言っても過言ではない。

中学の展示コンクールも、クラスの結束を必要とする行事の一つである。

合唱も展示も学年で順位がつけられる。

●中三田辺校地訪問

今年の中学三年生は、遠足として田辺校地を訪れた。新島記念講堂で、国際高校の山本信司先生のお話による礼拝を守り、その後国際高校に移動し、英語のガイダンスを受け、新しい情報センターを見学させていただいた。その後、同志社大学のキャンパス内を見学、田辺の同志社を、自らの目で体験する一日であった。

●収穫感謝礼拝

十一月八日(土) 果物や野菜を持ち寄って壇上に飾り、特別礼拝を守った。ここ数年來、中学一年生が理科の授業で育てた「稲穂」も捧げられた。

今年は一抱えもあるカボチャが飾られ、文化祭の模擬店の益金が献金に加えられた。午後は、これらを持って施設訪問に参加したので、にぎやかで好評であった。

●授業参観及び父母の会講演会

十一月二十日(木) 保護者は授業参観のあと、いちひめ雅楽会による管弦楽、舞楽を鑑賞。京都から文化を世界に発信しておられる音楽監督飛驒 富久氏の体験談を聞いた。

国際中高

新校舎完成とともに新しい学期が始まった。グラビアに掲載されたコミュニケーションコンプレックスがその中心である。さまざまな顔を持つその空間に生徒が入り、建物が動き始めた。

●始業式

九月一日(月) 七月編入生四十五人の新しい仲間を迎えて始業式を行った。

●オリエンテーション

九月二日(火)～九月六日(土) 中学と高校の生徒全員がコミュニケーション

ョンセンターの使用及びコンピュータの基本操作について、センターのスタッフから指導を受けた。

●体育祭

中学 九月二十七日(土)
高校 九月二十四日(水)

高校は天気恵まれて生徒たちは大いに競技を楽しむことができた。それに対して中学は予備日も雨で、急遽予定変更して決行した二十七日も途中で雨が激しくなり、中断ということになった。生徒たちはさかんに残念がっていたが、がんばって練習したマスゲームと応援合戦だけでも見せることができて少しは慰められた様子だった。

●文化祭

九月二十七日(土)
九月二十八日(日)

今年の文化祭は例年通りのクラス展示・舞台発表に、新しい空間を利用しての出し物が加わった。コミュニケーションホールでのインド舞踊やパントマイム。センター見学ツアー。プラザでのバンド演奏などがある内容である。

●中学遠足

十月三十日(木)
各学年それぞれに秋を楽しんだ。

一年 宇治天ヶ瀬森林公園、平等院

二年 嵐山

三年 大阪天保山周辺、ATC

●高校球技大会

十月三十日(木)
各学年、クラス対抗形式でバレーボールを楽しんだ。

●校舎見学と講演会、中学クラス懇談会

十一月一日(土)
保護者を対象として、コミュニケーションセンターを中心とした新築校舎の見学会、ならびに本校のコミュニケーション教育についての講演会を開催した。約二百九十人の参加があり、ダイアログ形式の講演会も好評であった。中学の保護者はその後、担任との懇談会を持った。

●秋季宗教強調週間特別礼拝

十一月四日(火)
中学、高校ともに、障害児の教育と差別問題に取り組んでおられる止揚学園の福井達雨先生の講演を聞いた。

中学校

●体育祭

九月十九日(金)
於 本校グラウンド

●学園祭

九月二十四日(水)～二十七日(土)
於 本校および大学会館

各学年行事、生徒会行事、クラブ展覧会および風間浦中学校との交流会。

●中間考査

十月二十二日(水)～二十四日(金)
全校バレーボール大会 十月二十八日(火)

於 本校グラウンド

●宗教人権週間

十一月四日(火)～八日(土)
「小さなことに大きな愛を」

福井達雨(止揚学園のリーダー)

「イエスキリストは命のパン」

米川明彦(茨木キリスト福音教会教師)

「共に生きるって？」

荒川共生(関西セミナーハウス職員)

人権行事 全校映画鑑賞

「世界人権宣言」「エイジアンブルー」

読書週間 十一月十日(月)～十五日(土)

●収穫感謝礼拝と施設訪問

十一月十五日(土)

「弱さを通して」

塩見三雄(元醍醐教会牧師)

放課後、果物をもって、生徒会役員・ホザナとハンドベル部員が京都ライトハウス・船岡寮(盲人養護老人ホーム)を訪問・交流した。

●創立記念礼拝

十一月二十二日(土)
奨励・杉井六郎(同志社大学名誉教授)

「新島先生とその弟子たち」

● 期末考查 於 大学明德館21番教室
十二月一日(月)～六日(土)

● 能・狂言鑑賞 十二月十一日(木)

3年生(全員参加)

国語授業の一環として実施。

● クリスマス礼拝

於 河村能楽堂

十二月二十日(土)

奨励・鎌谷襄(キリスト教社会福祉専門学

校校長)

「神様の冒険」

於 大学明德館21番教室

● スキーキャンプ

十二月二十三日(火)～二十七日(土)

三年生(自由参加)

四泊五日で、長野県志賀高原一の瀬スキー場へ。三百人参加。

幼稚園

一九九七年一月から十二月までに同志社幼稚園で行なわれた行事および集会は以下の通りです。

二月十六日(日) 創立百周年記念礼拝および記念祝賀会 於 都ホテル、三百八十人余

り出席。

三月六日(木) 卒業予定園児とのお別れ会

三月十日(日) 年長組卒業記念礼拝および謝

恩会 於 幼稚園

三月十五日(土) 卒業式 卒業生四十人

四月十一日(金) 入園式 入園児三十四人

四月三十日(水) 創立百周年記念植樹 松山

義則総長、野本真也理事長ご出席のもとに、

園庭に桜一本、花水木二本を親子で土盛りをして植樹。

五月二十一日(木) 母の会総会 母の会九六

年度の事業および会計報告と京都工芸繊維

大学教授清原壽一氏の講演「脳の生後発達

について」於 同志社同窓会館

六月七日(土) 創立百周年記念講演会 茶

道、裏千家、家元千宗室氏の講演「幼稚園の

思い出」出席者約百四十人

七月十六日(水) 夏祭 園児と母親との歌、

ダンス、ゲームなど。

七月十九日(土) 年長組キャンプ 比良湖畔

九月十三日(土) 公開保育と九八年度入園説

明会

十月一日(水)および二日(木) 九八年度入園希

望者面接

十月四日(土) バザー、九八年度入園児決定。

十月二十三日(木) 年少組遠足 大津、ふれあいの森

十月二十四日(金) 年中および年長組遠足、

滋賀県朽木村ふれあいの里

十一月二十日(木) 親子親睦会、ゲームと餅

つき(同志社大学相撲部のメンバーとともに)

など。

十一月二十八日(金) 新島襄先生のお墓へ墓

参、年長組園児と母親 於 幼稚園

十一月二十九日(土) デントン夫人(初代同

志社幼稚園長)永眠五十年記念会 於 同

窓会館、幼稚園より園長と教員三人出席。

十二月十三日(土) 全同志社マザーズコーラ

スの発表会、幼稚園母の会コーラス部「ウェ

ンデイズ」初参加 於 新島会館

十二月十七日(水) クリスマス祝会、礼拝と

ページェント、園児と保護者 於 幼稚園

●同志社理工学教育創始百年・工学部創設四十五周年記念
工学部統合整備事業資金募集完了について

一九九二（平成四）年十一月一日から進めてきました「工学部統合整備事業資金」は一九九七（平成九）年一〇月末日をもって五年間の寄付金募集期間を終了しました。

募金実績は別表のとおりであります。

今回の募金は工学部統合整備のための建物十二棟のうち理化学館、創考館の二棟を募金対象とし広くご支援を仰ぐこととしました。その一つの理化学館は工学部棟の正面に位置し、事務・管理部門と文献室で構成され今出川校地のハリス理化学館の精神をうけ継ぐ工学部の中心となる施設であります。もう一つの創考館は共通の実験装置を設置する工学部の中心となる共同研究棟であります。

一九九六年には文部省の「私立大学

学研究高度化推進事業」における最先端研究開発プロジェクト支援の一環である「ハイテク・リサーチセンター整備事業」の第一期の実施校に本学が選定され、同志社大学工学部先端科学技術センター（共通研究施設・産官学共同研究推進機構）が創考館内に設置されました。これからの企業などを含めた共同研究の場として活用が期待されます。

本事業にご芳志を寄せられました多くの企業、職域団体および卒業生、一般有志、教職員・元教職員の皆様方に深くお礼申しあげます。

なお、寄付者のご芳志を記念し、理化学館内の既設の場所に芳名録を収め縦覧に供します。

学校法人 同志社

募金実績

1992年11月1日～1997年10月31日

募集対象		目標額(円)	件数(件)	募集実績(円)	達成率(%)
法人		15億	381	1,087,450,000	72.5
個人	教職員 元教職員	5億	223	46,036,400	20.8
	卒業生 一般		1,642	57,976,658	
計		20億	2,246	1,191,463,058	59.6
現物寄付(法人)		—	1	12,225,000	—
合計		20億	2,247	1,203,688,058	60.2